

前夜に備えよ

校長 鈴木 恵一

四月から新たな生活が始まります。「混沌の時代」に突入したと言われる現在、近未来のAIは人間労働をどこまで駆逐するのでしょうか。少子高齢化の勢いはどこまで続くのでしょうか。不穏な動きの国際情勢はなるのでしょうか。環境破壊や頻発する自然災害にどう対処していけばよいのでしょうか。人類はSDGsの各目標を本当に達成できるのでしょうか。

私たちは決して傍観者ではられません。人間には知恵があります。その知を結集し、あらゆる危機や困難を乗り越えた先に明るい未来があるのです。でも、あなたが特異な才能を身に付けたとしても、自分一人で成し得ることには限界があります。その才能を本当に生かすには、何人もの人の見えない力を借りる必要があります。真の信頼や協働とは何かが分かったとき、心の底から感謝の念も生まれます。

私たちは、なぜ学ぶのか、なにを学ぶのか、どう学ぶのか、高校卒業後の長い人生においても常に問いを立て続ける必要があります。勉強も仕事も内容によっては興味の持てないことや苦手なこともあって当然です。明確な動機を持たずに嫌々やるのは辛いですね、きついですね。日々煩悶し心が壊れそうになるからガラスの十代と言われるけれど、二〇二二年四月一日に十八歳・十九歳に達した人は成人になります。社会的に責任が重くなる成人になってもなお、いろいろなことに迷い、つまずき、傷つき、時として泥まみれになることだってあるかもしれません。そこを乗り越えてこそ、あなたは本当の大人になれるのです。

「前夜に備えよ」

今日という日は、明日も歩き続けるための準備期間です。昨日よりは今日、今日よりは明日の成長を思い描いてください。前夜には心を整えておかなければなりません。

「自分のため（利己）」の延長線上に「他者・社会のため（利他）」

という自覚がない人はどこかで行き詰まります。今は遙か彼方にボンヤリとしか見えない目標かもしれませんが、それが人類に課された「使命（命の使い方）」なのです。誰かのため、社会のため、そして未来に存在する命・次世代へ希望を繋ぐことです。だからあなたは必要な存在であり、あなたの命は尊いのです。